

平成27年度 学校経営計画に係る自己評価計画書

石川県立翠星高等学校

No. 1

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
1 地域の食や環境の問題に積極的に関わり、地域の活性化に貢献する意欲と態度を育成する。	① ふるさと石川の「里山里海保全」の大切さについて理解を深めるために講演会、研究発表会等を実施する。	全職員 各年次 各コース 各研究会	昨年度のアンケート調査で「里山里海保全の大切さが理解できた」と答えた生徒の割合は76%で、生徒の認識は向上してきている。年次、コース等での継続した取り組みが望まれる。	【満足度指標】 ふるさと石川の「里山里海保全」の大切さを理解する。	里山里海保全の大切さが理解できた生徒の割合は A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	7月、1月に生徒を対象にアンケートを実施
	② 校内環境美化に積極的に取り組む。	保健課 特活課 各年次 各分掌 各コース	昨年度のアンケート調査で「校内の環境美化に積極的に取り組んでいる。」と答えた生徒の割合が69%とやや低下した。生徒会のマナー環境美化週間の活動や環境美化・保健委員会の活動の活性化が望まれる。	【成果指標】 校内の環境・美化に積極的に取り組んでいる。	校内の環境美化に積極的に取り組んでいると答えた生徒が A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	7月、1月に生徒を対象にアンケートを実施
2 学習意欲の向上と基礎学力の定着を図るとともに、進路実現に向けてキャリア教育の充実・強化に取り組む。	① 朝学習（翠星タイム）を通して、学びの姿勢や基礎学力を身につける。	教務課 各年次 各教科	昨年度のアンケート調査では「基礎学力が身についた」と答えた生徒の割合は72%であった。今後は、社会で必要とされる基礎学力の向上のための学習計画の検討が望まれる。	【成果指標】 朝学習（翠星タイム）に取り組み、基礎学力を身につける。	基礎学力を身につけることができたと思う生徒の割合が A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	7月、1月に生徒を対象にアンケートを実施
	② 生徒の授業評価や研究授業及び互見授業を通して、授業の工夫・改善を図り、授業改善に積極的に取り組む。	教務課 各教科 全教員	昨年度のアンケート調査では「授業が分かりやすい」と答えた生徒の割合は73%で、一昨年度とほぼ同じ値であった。今後は、積極的に互見授業を推進し、さらに授業改善に取り組む必要がある。	【満足度指標】 分かりやすいと満足している生徒が増えている。	授業が「分かりやすい」と満足している生徒の割合は A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	7月、1月に生徒を対象にアンケートを実施
	③ 3年間を見通し、各年次に応じたキャリア教育を積極的に展開し、全員の進路実現に取り組む。	進路指導課 各年次 各学科	昨年度、資格取得にチャレンジした生徒数は407名であった。今年度は資格取得をさらに推進し、生徒の職業意識向上を図りたい。	【成果指標】 個々の生徒が積極的に資格取得へチャレンジしている。	資格取得にチャレンジした生徒の増加割合が A 40%以上 B 30%以上 C 20%以上 D 20%未満	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	教務課による集計

平成27年度 学校経営計画に係る自己評価計画書

石川県立翠星高等学校

No. 2

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
3 社会人として必要な生活習慣や規範意識、マナー等の向上に取り組む。	① 生徒が自発的に挨拶を行うように、授業や登校指導において挨拶の指導を行う。	生徒指導課 全教職員 各年次	昨年度のアンケート調査では「マナーが向上した」と答えた生徒の割合は74%で、一昨年度よりやや低い値であった。今後も、継続的に粘り強く挨拶等の指導が必要である。	【成果指標】 自発的に大きな声で挨拶ができる生徒が増加している。	自発的に大きな声で挨拶ができたと答えた生徒の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	7月、1月に生徒を対象にアンケートを実施
	② 基本的な生活習慣の確立を目指し、遅刻や欠席者の減少に取り組む。	生徒指導課 全教職員 各年次	昨年度の遅刻者数の減少割合は、9%であった。生徒指導課とクラス担任の連携を含めて、学校全体での取り組み成果は少しずつ表れてきている。今後は、さらに家庭にも協力を呼びかけていきたい。	【成果指標】 基本的な生活習慣が身につき、遅刻者が減少している。	前年度に比べ、遅刻者の減少割合は A 40%以上 B 30%以上 C 20%以上 D 20%未満	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	生徒指導課による集計
	③ 交通安全指導の充実を目指し、教職員全員で登校指導に取り組む。	生徒指導課 全教職員 各年次	昨年度、自転車の二人乗り等で街頭指導を受けた生徒の数は119件で一昨年度より45件程度減少した。今後も、交通マナー教室等を通しての継続的な指導が望まれる。	【成果指標】 交通マナーで街頭指導を受けた生徒が減少している。	前年度に比べ、街頭指導を受けた生徒の減少割合は A 30%以上 B 20%以上 C 10%以上 D 10%未満	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	生徒指導課による集計
4 部活動など課外活動への積極的な参加を促し、活力のある学校づくりに取り組む。	① 講習会、講演会などを積極的に取り入れ、部や研究会活動の活性化に取り組む。	特活課 農業クラブ 全教職員 各年次	昨年度のアンケート調査で「部や研究会活動に積極的に活動している」と答えた生徒の割合は71%で、一昨年度とほぼ同じような値であった。今後も、部活動への全員加入等の継続的な取り組みが望まれる。	【成果指標】 部や研究会活動などに積極的に活動する生徒が増加している。	部や研究会活動などに積極的に活動する生徒の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	7月、1月に生徒を対象にアンケートを実施
	② 農業クラブ活動の活性化を図り、全国大会への出場者増加に取り組む。	農業クラブ 農業科 各研究会 各コース	昨年度、農業クラブ全国大会への出場者は、農業鑑定競技4名、プロジェクト発表部門に9名の合計13名であった。今後は、各コースの研究会活動を活発化させ、農業クラブ活動の充実につなげたい。	【成果指標】 農業クラブ活動が活性化し、全国大会への出場者が増加する。	農業クラブ全国大会への出場者は A 16名以上 B 11名以上 C 6名以上 D 学校枠の5名のみ	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	全国大会の出場者数を確認。